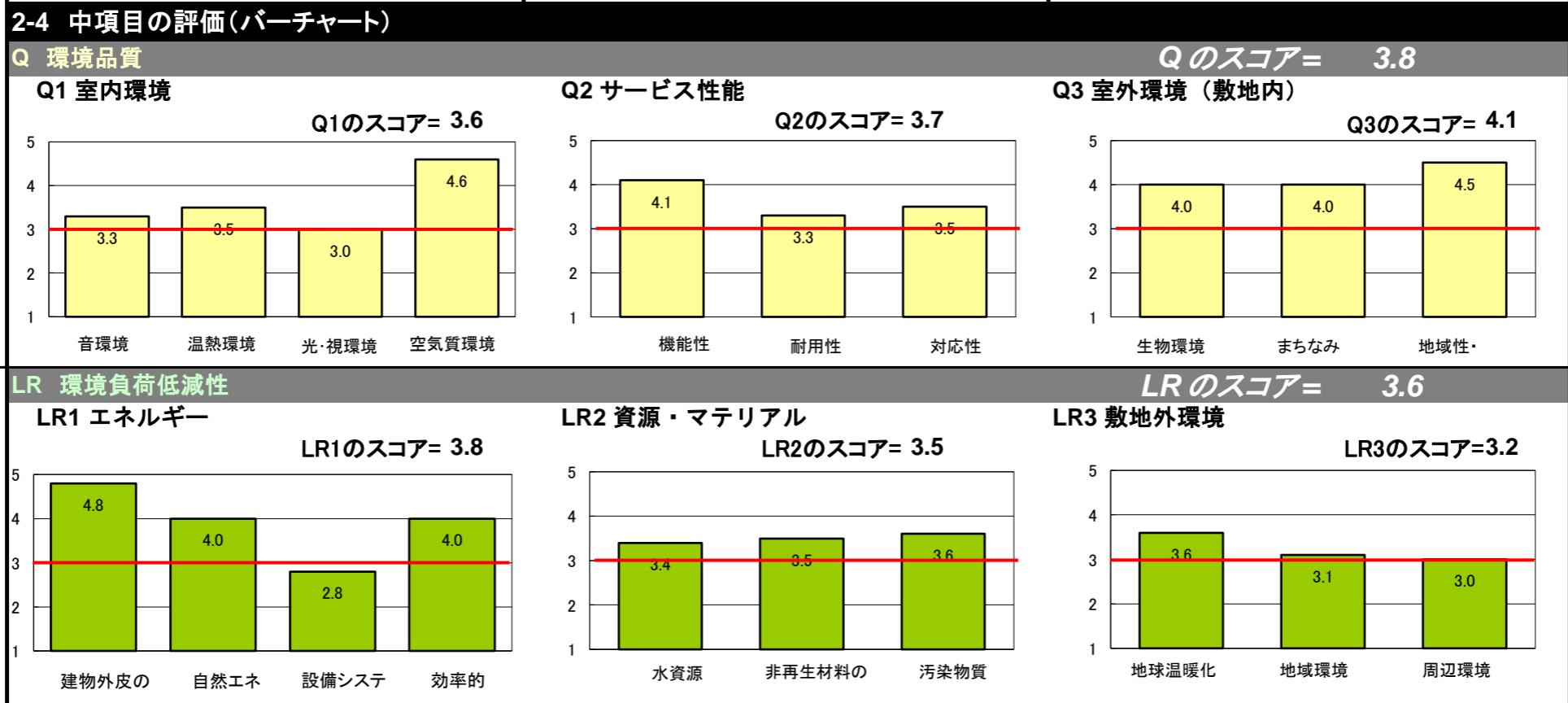
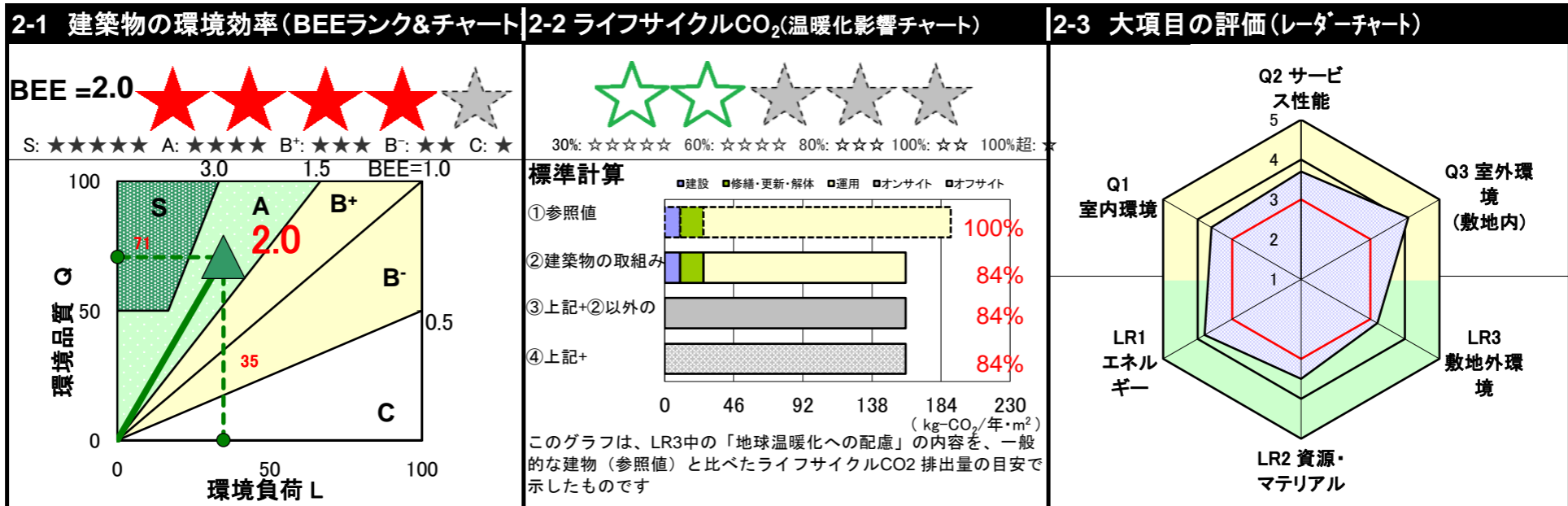


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	トヨタ記念病院	階数	地下1階地上9階
建設地	愛知県豊田市平和町1丁目1-1 他41筆	構造	S造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	2,560 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年5月 予定	評価の実施日	2020年4月9日
敷地面積	98,259 m ²	作成者	日建設計 富田 里央
建築面積	11,540 m ²	確認日	2020年4月9日
延床面積	72,854 m ²	確認者	日建設計 橋高宗平



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.6</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>4.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>37.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>5.4 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.4</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		重み係数	全体	
					評価点	評価点	評価点	評価点			
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.4	0.15	2.9	2.9	1.00			3.3	
1.2 遮音		0.4	3.0	0.40		2.8	0.40				
1 開口部遮音性能			3.0	0.40		3.0	0.30				
2 界壁遮音性能			3.0	0.60		3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-		3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-		2.0	0.20				
1.3 吸音			3.0	0.20		1.0	0.20				
2 温熱環境											
2.1 室温制御		0.3	3.5	0.35	3.4	3.4	1.00			3.5	
1 室温		0.5	3.3	0.50	3.0	3.0	0.50				
2 外皮性能			3.0	0.38		3.0	0.57				
3 ゾーン別制御性			3.0	0.25		3.0	0.43				
2.2 湿度制御			3.0	0.38		-	-				
2.3 空調方式			3.0	0.20		5.0	0.20				
AHU、FCU共に4管式を採用 病室にて45%以上の湿度が実現できる設備容量を確保											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用		0.2	3.0	0.25	3.0	3.0	1.00			3.0	
1 昼光率		0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30				
2 方位別開口			3.0	0.60		3.0	0.60				
3 昼光利用設備			3.0	-		3.0	-				
3.2 グレア対策			3.0	0.40		3.0	0.40				
1 昼光制御		0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30				
3.3 照度			5.0	1.00		3.0	1.00				
3.4 照明制御			3.0	0.15		3.0	0.15				
トップライトによる採光確保											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策		0.2	4.7	0.25	4.5	4.5	1.00			4.6	
1 化学汚染物質		0.5	5.0	0.50	5.0	5.0	0.63				
F☆☆☆☆を全面的に採用しホルムアルデヒド以外のVOCも考慮											
4.2 換気		0.3	4.0	0.30	3.6	3.6	0.38				
1 換気量			3.0	0.50		3.0	0.33				
2 自然換気性能			3.0	-		3.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50		5.0	0.33				
外気取入は各排気口と異なる方位かつ6m以上離れた位置											
4.3 運用管理		0.2	5.0	0.20		-	-				
1 CO ₂ の監視			3.0	0.20		-	-				
2 喫煙の制御			3.0	1.00		-	-				
CO ₂ 監視が中央で常時行える 建屋内禁煙											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	4.0	0.40	4.8	4.8	1.00			4.1	
1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	5.0	5.0	0.60				
個室10㎡/床及び多床室8㎡/床以上確保											
2 高度情報通信設備対応			3.0	-		5.0	1.00				
3 バリアフリー計画	独自		3.0	3.0		-	-				
1.2 心理性・快適性		0.3	5.0	0.30	4.5	4.5	0.40				
1 広さ感・景観(天井高)			3.0	0.30		4.0	0.50				
天井高さ2.60m											
2 リフレッシュスペース			3.0	0.30		-	-				
3 内装計画			3.0	1.00		5.0	0.50				
内装計画段階でコンセプトを反映するための取り組みを行っている											
1.3 維持管理		0.3	4.5	0.30		-	-				
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50		-	-				
2 維持管理用機能の確保			4.0	0.50		-	-				
仕上げ材の防汚性や耐候性に配慮している 各所維持管理機能を確保している											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.3	0.31		-	-			3.3	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.4	0.48		-	-				
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.80		-	-				
免震性能をもち建築基準法に定められた耐震性を有する											
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.1	0.33		-	-				
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23		-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		3.0	0.23		-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09		-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08		-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			4.0	0.15		-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23		-	-				
主要な用途上位3種の2種以上にC以上を採用											
2.4 信頼性		0.1	3.4	0.19		-	-				
1 空調・換気設備			3.0	0.20		-	-				
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20		-	-				
3 電気設備			3.0	0.20		-	-				
4 機械・配管支持方法	②		3.0	0.20		-	-				
5 通信・情報設備			3.0	0.20		-	-				
熱源の分散化、バックアップの確保 節水器具採用、緊急用汚水貯留槽設置、受水槽の二重化、工水の											

3 対応性・更新性				0.2	3.5	0.29	3.6	3.6	1.00	3.5
3.1 空間のゆとり				0.3	4.2	0.31	4.2	4.2	0.50	
1	階高のゆとり		病室部分、階高4.2m確保	-	5.0	0.60		5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38				
1	空調配管の更新性	②	主要設備機器の更新に対応した仮設スペースを確保 バックアップ設備のためのスペースを確保	-	3.0	0.17				
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17				
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11				
5	設備機器の更新性			3.0	4.0	0.22				
6	バックアップスペースの確保			3.0	4.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30					4.1
1 生物環境の保全と創出			独自③		4.0	0.30				4.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		4.0	0.40				4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	4.5	0.30				4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		5.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上					4.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性					-					3.6
LR1 エネルギー					-	0.40				3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m =0.82	3.0	4.8	0.30			4.8
2 自然エネルギー利用					3.0	4.0	0.20			4.0
3 設備システムの高効率化					3.0	2.8	0.30			2.8
4 効率的運用				0.2	4.0	0.20				4.0
集合住宅以外の評価					1.0	4.0	1.00			
4.1	モニタリング		4種類以上の効率評価が行うことができる	3.0	5.0	0.50				
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50				
集合住宅の評価					-	-				
4.1	モニタリング			-	3.0	-				
4.2	運用管理体制			-	3.0	-				
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				3.5
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15				3.4
1.1 節水					3.0	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67				
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63				3.5
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用					5.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②		3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自		3.0	1.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	5.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22				3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68			
1	消火剤		不活性ガス消火剤の採用 発泡剤を用いた断熱材使用なし		4.0	0.33				
2	発泡剤(断熱材等)			5.0	0.33					
3	冷媒			3.0	3.0	0.33				
LR3 敷地外環境					-	0.30				3.2
1 地球温暖化への配慮			①		3.6	0.33				3.6
2 地域環境への配慮				0.3	3.1	0.33				3.1
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.7	0.25				
1	雨水排水負荷低減	独自	雨水貯留槽を整備		4.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25					
3	交通負荷抑制	独自	駐車場、駐輪場、バイク置場を整備		5.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25					
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40				
1	騒音	独自			3.0	0.50				
2	振動	独自			-	-				
3	悪臭			3.0	0.50					
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40				
1	風害の抑制				3.0	0.70				
2	砂塵の抑制			3.0	-					
3	日照障害の抑制			3.0	0.30					
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70				
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30					

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	外構緑化:37.9%/建物緑化:5.4%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・利用されるすべての方々から信頼される『町いちばん』の病院を目指す。 ・BCP対応として7日間自立できる設備をスペックイン。 ・インテリアは屋外の公園のような中央吹抜けを取り囲む外来エリア、多様な待ち時間の過ごし方を支える厚生エリア、など様々な目的を持った人が「過ごす」場である「まち」をデザインしている。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・内部負荷の分布などを考慮し、適切な空調ゾーニングを行っている。 ・内装材にはF☆☆☆☆を採用。 ・45～50%の範囲の湿度を実現することが可能な設備容量を確保している。 ・CO2監視が中央で行えるシステムとなっている。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼性の高い空調・換気設備を有している。 ・災害時における給排水設備への対応を行っている。 ・地域に開放された屋上庭園を設置。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地内に十分な駐車スペースを確保している。 ・近隣住民に開放された遊歩道を設け、四季折々の植栽を計画している。 ・自家用車で来訪した際、エントランスまで送迎バス(eパレット)と待合乗場を設けた。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽集熱、クールヒートトレンチなどの自然エネルギーの利用。 ・ポイントデータを収集しデータベース化を行うことを計画している。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・節水型衛生器具を採用している。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・建物を敷地境界から十分に離し敷地境界にはフェンス、植栽を施している。 ・遊歩道が設けられ、近隣住民に開放されている。 ・敷地内に十分な駐車スペースを確保。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・既設建物のエントランスホール内壁に施されている大理石を移設し一部再利用を計画している。